

「若手農業者と議員とのカフェ・ド・ギカイ」の参加者意見と議員の発言

土地改良

若手農業者	議員
土地改良区との連携を深めたい。フォローして欲しい。	町と土地改良区は別の組織であるが、町には提言していきたい。
新しくアスパラの栽培を始めようとした時に、排水が悪く問題があった。	土地改良区の人とつながりを持つとよい。
土地改良区の排水設備の修理をお願いしたら、自腹で修理してくれと言われた。	担当役員に相談してみる。
用水路に壊れている所があり、伝えても修繕してくれない。 稲刈りの時にも水が入ってしまう。排水から水を取っている所は水が切れてしまう時がある。水田の流れを止めると他に迷惑がかかる。	各地区の担当役員に相談してみてもは。
田んぼから出る石の処理に困っている。	釜ヶ淵土地改良区は石を集めておいて、何かの工事をする時に資材として活用している。
土地改良区で入っている所とない所がある。 なぜ、除外地があるのか。 地図と一致しない。 出口がない所もある。 実際のある場所に行って、確認して欲しい。	入る入らないは自由だった。
	今後の土地改良事業の必要性が重視されている。 町では、町内を16地区に分けて昨年懇談会を実施しているが、若い方の意見を聴きたい。

地域での共同作業

若手農業者	議員
用水路に土がたまるので、堀さらいをしなければならないが、高齢化で対応が難しい。負担が大きく、インフラ整備が課題。	堀さらいは人が集まらない。役員に相談するとよい。
	農地水(「農地・水・環境保全向上対策推進事業」)の取組があるが、書類作成が必要となる。町政職員OBに頼むとよい。
面積が大きく、野芝焼きが1日では終わらない。2日位に増やして欲しい。	時代の変化に伴って、変える必要がある。農家の規模が拡大しているので、検討してもらうため防除協議会につないでみる。

剪定枝の処分

若手農業者	議員
果樹の剪定した枝の処理に時間がかかるので、燃やす日を設けて欲しい。	

耕作放棄地問題

若手農業者	議員
規模を拡大するために、高齢化で離農した人の名簿や地図が欲しい。	土地改良区の理事がいるので、その役員に相談するとよい。
耕作放棄地の情報が欲しい。	
高齢者が増え重労働が難しくなっている。20年後には担い手が少なくなり、土地が耕作されず余るような状況になるのでは。	これからは、農地の保全をどうしていくか、耕作放棄地をどうしていくかが問題になってくる。
耕作放棄地の問題は深刻。 耕作放棄地で農業をゼロから始めるのは負担が大きい。	
例えば、高齢者が3町歩の畑地化申請をしてリタイアしたいと思った時に、3町歩は元の水田に戻せないのが現状。	米の消費が落ちている。「米をどうするか」が日本の農業の大きな課題。国策としても畑地化を進めてはいるが、他の作物に変えたとしても元の水田に戻せるかが分からないのが大きな問題。

補助事業の要望

若手農業者	議員
機械の更新が難しい。	
いちごの作付を増やすために井戸を掘りたいが、柏崎は100m位掘らないといけない。負担が大きいので補助金はないのか。	町行政等に伝えて、補助金を要請してみる。
いちごの農家の3代目で、パイプハウスが老朽化している。建て替えを考えているが、負担が大きいので補助金はないのか。新規就農や規模拡大には補助金があるが、設備を更新する際にも欲しい。	町でパイプハウスの補助を行っているが、更新に対しての補助はない。今後対応すべき問題なので、町に要請していく。
最近、資材高騰だが生産物価格は上がらないので、厳しい。頑張っている人へ援助をして欲しい。	付加価値を付けた販売をして所得向上になるといい。
他県でヘーゼルナッツ類を育てている。那珂川町でも取り組んでいるが、木は補助金の対象にならないのか。耕作放棄地に数年かかる木を植えることをこれから町で取り組んではどうか。	農協から補助金等の通知（畑地化促進事業）があったものを参考にしながら検討してみてもいい。必要であれば、町へ取り次ぐ。

販路

若手農業者	議員
<p>私達は、農協だけに頼らない。 新たな販路開拓も自ら行っているが、町の方でも、例えば加工業者などを見つけやすい状態にしてくれたら、ありがたい。</p>	<p>農協だけに頼るのではなく、自分の商品に自分で値段をつける方法も大事。</p>
<p>県全体で推している物が、米といちごと梨と牛乳で偏っているので、アスパラなど他の作物にも注目してもらえるようにして欲しい。 栃木県は東京までの輸送コストがあまりかからないので、その強みを活かした販路開拓を行って欲しい。他都市との交流により、化学反応を起こす。</p>	<p>益子町では観光の一環として、バナナとパイナップルを栽培し、農家が園芸作物の補助ももらって、大成功している。</p>
	<p>本町の「元気あっぷむら」などを利用しながら、独自の作物を作るのも一つの方法。若い力を結集して欲しい。</p>
	<p>行政の販路体制の確保が重要。以前、上三川に減反が入った時、町が、いの一に首都圏農業の販路体制を作って、所得を上げる方法をとった。 国も園芸作物を推進しているので、必ず補助金が出る。</p>
	<p>時代は進んでいるのに、私が農業をやっていた頃と今は、農業の考え方が全く変わっていない。 農業は「守る」のではなく、今は「攻める」時代になってきている。新しいことにチャレンジする人を助けなければならない。</p>

4Hクラブ

若手農業者	議員
<p>4Hクラブは、町から10万円の補助をもらって、町内園児や学童に無償で収穫体験教室や他地区協議会との交流を行っているが、今の補助金額だと、さつま芋を買って、ほぼ無くなってしまう。</p> <p>その他のイベントにも参加して、ブースを出してもっとPRしたい。</p> <p>その経費の補助をもっとして欲しい。</p>	<p>同年代の農業従事者や他地域との交流大切なので、素晴らしいこと。</p>
<p>4Hクラブでは、他の地区との交流もしている。</p>	

土地利用

若手農業者	議員
<p>花岡・伏久付近は、住宅が立てられない土地になっている。マニーも来る転換期なので、耕作放棄地があれば住宅や公園に転用できるなど、土地利用の見直しができればよい。</p> <p>住んでいる人が住みやすいようにして欲しい。</p> <p>花岡付近に子ども連れ家族が住んでくれれば、すぐ側で農作業を身近に感じることができ、食育や将来の農業従事者を育てるためにも役立つ。</p>	<p>土地利用は都市計画法に基づいているものであるので、町に進言していきたい。</p>